

尚綱大学

教育情報及び財務情報の公表について

学校法人尚綱学園は、公共性の高い法人としての社会的責任を踏まえ、情報公開に取り組んでいます。当学園に対する皆様方のご理解とご協力を得ることを目的として、下記の基本情報を公開いたします。

1. 教育研究上の基礎的な情報

- (1) 学部、学科及びコースの名称
- (2) 各学部、学科の教育研究上の目的
- (3) 専任教員数等
- (4) 校地・校舎等の施設その他の学生の教育研究環境
- (5) 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用
- (6) 教材購入費

2. 修学上の情報等

- (1) 教員組織、各教員が有する学位及び業績
- (2) 入学者に関する学生受入方針（アドミッションポリシー）
- (3) 入学定員、入学者数、収容定員、在籍者数
- (4) 入学者数、退学者数、除籍者数、中退者数、中退率及び留年者数の推移
- (5) 社会人学生数、留学生数及び海外派遣学生数
- (6) 卒業者数、就職希望者数、就職者数、就職率及び進学者数他
- (7) 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画
- (8) 学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっての基準
- (9) 学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援
- (10) 教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報

3. 財務情報

- (1) 平成 22 年度財産目録
- (2) 平成 22 年度貸借対照表
- (3) 平成 22 年度資金収支計算書
- (4) 平成 22 年度消費収支計算書
- (5) 平成 22 年度事業報告書
- (6) 監事の監査報告書
- (7) 平成 22 年度決算の概要報告
- (8) 平成 23 年度の学生生徒数の状況

1. 教育研究上の基礎的な情報

(1) 学部、学科及びコースの名称

学部名	学科名	コース名
文化言語学部	文化言語学科	日本文学・言語コース
		書道コース
		アメリカ・東アジア文化言語コース
		地域文化・社会コース
生活科学部	栄養科学科	

(2) 各学部、学科の教育研究上の目的

<文化言語学部>

現代及び未来を厳しく見据え、文化と言語に力点を置いた教育と研究を展開し、将来の日本社会が必要とする国際的かつ文化的センス豊かな国内外で広く正しく活用し得る言語を身につけた人材の養成を目的とする。

<生活科学部>

健康の保持・増進のための栄養教育、疾病構造の変化等に対応した栄養管理及び食糧問題等に関する国際的視野に立った食環境の課題など社会の要請に対応できる人間性豊かな高度専門職業人を養成することを目的とする。

(3) 専任教員数等

学部ごとの専任教員数（平成23年5月1日現在）

（単位 人）

学部名	学科名	教授		准教授		講師		助教		計		
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
文化言語学部	文化言語学科	10	0	6	2	4	0	1	1	21	3	24
生活科学部	栄養科学科	3	3	3	1	0	2	0	0	6	6	12
計		13	3	9	3	4	2	1	1	27	9	36

法令上必要な専任教員数（平成23年5月1日現在）

（単位 人）

学部名	専任教員数					設置基準で定める最低専任教員数	
	教授	准教授	講師	助教	計	別表第1	別表第2
文化言語学部	10	8	4	2	24	10 (5)	10 (5)
生活科学部	6	4	2	0	12	10 (5)	
計	16	12	6	2	36	30 (15)	
備考	1. 「設置基準で定める専任教員数」欄の「別表第1」は、大学設置基準第13条別表第1「学部の種類及び規模に応じ定める専任教員数」の「イ」に基づく教員数を表す。 2. 「設置基準で定める専任教員数」欄の「別表第2」は、大学設置基準第13条別表第2「大学全体の収容定員に応じ定める専任教員数」の備考2に基づく教員数を表す。 3. 「設置基準で定める専任教員数」欄に示す教員数の（ ）内は、大学設置基準第13条別表第1のイの備考第1号に定める教授数（専任教員数の半数以上）を表す。						

専任教員の学部ごとの年齢別の構成（平成23年5月1日現在）

（単位 人）

学部名	職 位	71歳以上	61歳～70歳	51歳～60歳	41歳～50歳	31歳～40歳	30歳以下	計
文化言語学部	教授	0	3	6	1	0	0	10
	准教授	0	0	1	3	4	0	8
	講師	0	0	0	2	2	0	4
	助教	0	0	0	0	1	1	2
計		0	3	7	6	7	1	24

学部名	職 位	71歳以上	61歳～70歳	51歳～60歳	41歳～50歳	31歳～40歳	30歳以下	計
生活科学部	教授	0	3	2	1	0	0	6
	准教授	0	2	0	1	1	0	4
	講師	0	0	0	2	0	0	2
	助教	0	0	0	0	0	0	0
計		0	5	1	4	1	0	12

教員一人当たり学生数（平成23年5月1日現在）

（単位 人）

学部名	専任教員数 〔助手を除く〕	収容定員	在籍学生数					教員一人当たり 学生数	
			1年	2年	3年	4年	計	収容定員 基準	在籍学生 数基準
文化言語学部	24	350	54	69	51	45	219	14.6	9.1
生活科学部	12	300	69	85	73	82	309	25.0	25.7
合 計	36	650	123	154	124	127	528	18.1	14.7

収容定員充足率（平成23年5月1日現在）

（単位 人）

学部名	収容定員	在籍学生数					収容定員充足率 (%)
		1年	2年	3年	4年	計	
文化言語学部	350	54	69	51	45	219	62.6
生活科学部	300	69	85	73	82	309	103.0
合 計	650	123	154	124	127	528	81.2

専任教員と非常勤教員の比率（平成23年5月1日現在）

（単位 人）

学部名	専任教員数	専任教員 による担当 授業科目数	非常勤教員 による担当 授業科目数	専任と非常勤の 比率 (%)	
				専任	非常勤
文化言語学部	24	275	62	81.6	18.4
生活科学部	12	126	38	76.8	23.2
計	36	401	100	80.0	20.0

(4)校地・校舎等の施設その他の学生の教育研究環境

校地・校舎の概要

本学は熊本市の楡木と九品寺に2つのキャンパスを有している。

楡木キャンパスは熊本市中心部から車で30分程の熊本市北東部のベッドタウンに位置し、大学の文化言語学部、短期大学部（幼児教育学科）及び短期大学部附属幼稚園がある。キャンパスの周辺は閑静な住宅街と豊かな自然環境に囲まれており、また、キャンパスの中央には手入れの行き届いた庭園が配置され、学生の憩いの場となっている。楡木キャンパスの校舎配置図は図1に、校舎の概要は表1に示すとおりである。

一方、九品寺キャンパスは熊本市の中心部に位置しており、学園本部、大学の生活科学部、短期大学部（総合生活学科、食物栄養学科）、高等学校及び中学校がある。九品寺キャンパスの校舎配置図は図2に、校舎の概要は表2に示すとおりである。

校地面積は38,965㎡で大学設置基準上必要な面積(7,000㎡)の約5.6倍を確保している。

また、校舎面積は11,603㎡で大学設置基準上必要な面積(6,610㎡)の約1.8倍を確保している。

運動場・体育施設

文化言語学部のある楡木キャンパスには体育館、運動場及びプールがある。体育館のメインアリーナはバスケットボールコートをもつ2面とれる広さがあり、その他に卓球場や多目的ホール、部室棟などの設備がある。楡木キャンパスの体育館、運動場及びプールは、いずれも短期大学部（幼児教育学科）との共用である。一方、生活科学部のある九品寺キャンパスには、敷地内に短期大学部や高等学校などの校舎があり、かつ、熊本市の中心部に位置することもあって、大学専用の体育施設を設置するのに十分なスペースを有していない。したがって、現在、生活科学部の1年次の教養教育科目の一部は楡木キャンパスにおいて開講されているが、1年次に配当される体育の授業についても設備が整っている楡木キャンパスにおいて実施することとしている。

課外活動の状況及びその施設

本学では、学生会を組織し、新入生歓迎会、七夕祭（文化言語学部）、学園祭などの学生による自治活動を行っている。これら学生会の活動は学生支援委員会並びに学生支援課で支援しており、年2回の学生役員会並びに学生総会には学生支援委員が陪席している。また、課外活動への支援・指導は各クラブ顧問によって行われ、相談窓口には学生支援課がある。課外活動は文化言語学部の楡木キャンパスで12団体（学生会、書道部、美術部、文芸部、韓国語クラブ、中国語研究部、写真部、映画研究会、RANDA（硬式テニス）、活字同好会、スポーツ同好会、PON-PO TENNIS（ソフトテニス））生活科学部の九品寺キャンパスで6団体（学生会、ワンダーフォーゲル部、生花部、ハンドクラフト部、食育研究会、科学研究同好会）がある。毎年、学生の保護者等で構成する後援会より助成金を支給している。

課外活動施設については、楡木キャンパスでは体育館の空き時間などを利用し、部室については短期大学部と共用の課外活動部室10室と大学1号館内に美術部室、書道部室、学生会室がある。九品寺キャンパスでは、現在再開発が進行中であり今後の課題となっている。

休息を行う環境、その他の学習環境

文化言語学部のある楡木キャンパスには、短期大学部の幼児教育学科と共用の学生ホール（学生食堂兼用）があり、席数は400席弱で学生同士の談話や自習の場としても広く活用されている。また、大学1号館の文化言語研究室は会合等に利用されている。構内に多くの木々が植樹されており、特に1号館と2号館に面する前庭には芝生が張られ、季節を感じさせる樹木がバランスよく配置されている。

一方、生活科学部がある九品寺キャンパスでは、1号館1階に学生食堂が設置されており、安価な価格設定もあって、昼休みには多くの学生でにぎわう。なお、学生食堂は常時学生に開放されており、昼食時間帯以外は、学生の談話スペースや自習スペースとして活用されている。また、コンビニエンスストアが学生食堂に隣接する形で設置されており、筆記具などの文具をはじめ、弁当・お菓子・カップラーメン・ドリンク・雑誌などの幅広い品揃えで学生に好評を得ている。

図1 榎木キャンパス校舎配置図

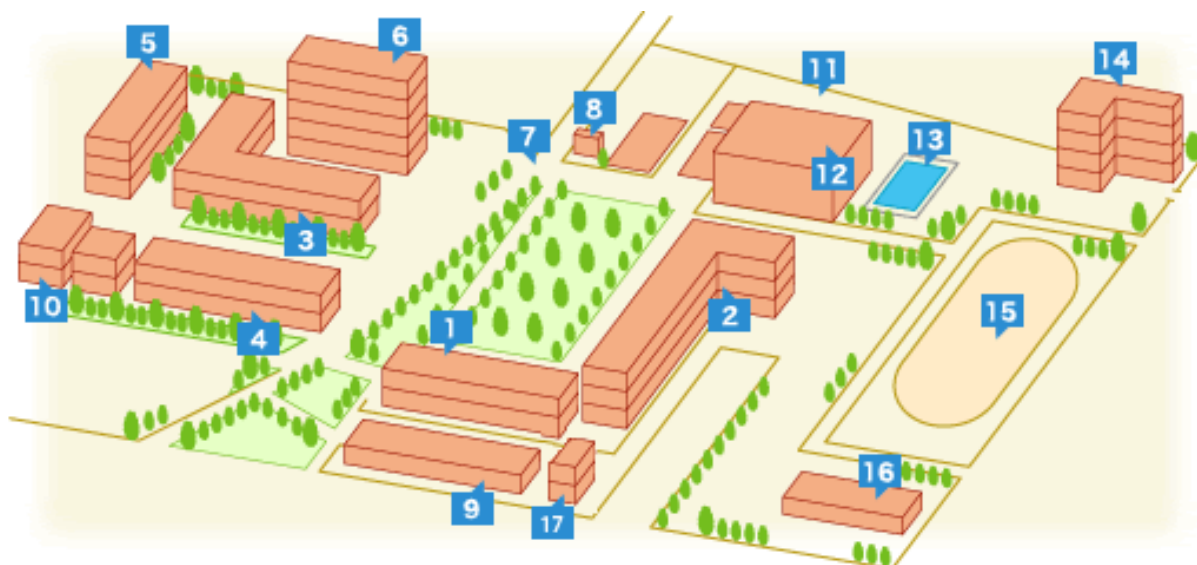


表1 榎木キャンパス校舎概要

1	大学1号館	1F 第1～第4講義室、学生会室 2F 研究室、文化言語研究室、第6講義室 3F 第7、第8講義室					
2	大学2・3号館	1F 第3演習室、第9～第12講義室 2F 図書館 3F 情報処理室、生物学教室					
3	短大1号館	1F 図工教室、茶室、学生会室、学生支援課、就職課、学生ホール 2F ピアノ個室、音楽教室、研究室、リトミック室					
4	短大2号館	1F 第1～第3講義室、実習指導室、研究室、子育て支援研究センター、雑誌閲覧室 2F ピアノ個室、第5講義室、ワープロ室、研究室、視聴覚室					
5	短大3号館	1F 調理実習室 2F 第6講義室 3F ピアノ個室					
6	管理棟	1F 事務局、保健室 2F 講師控室、理事長室、学長室、学園事務局長室、カウンセラー室(ルーム)、入試センター 3F 研究室、卒業論文研究室 4F 会議室、研究室 5F 大講義室					
7	正門	8	守衛室	9	学生食堂・売店 学生ホール	10	短大ロッカー室
11	駐輪場	12	体育館	13	プール	14	如蘭学寮
15	グラウンド	16	幼稚園園舎	17	大学ロッカー室		

図2 九品寺キャンパス校舎配置図

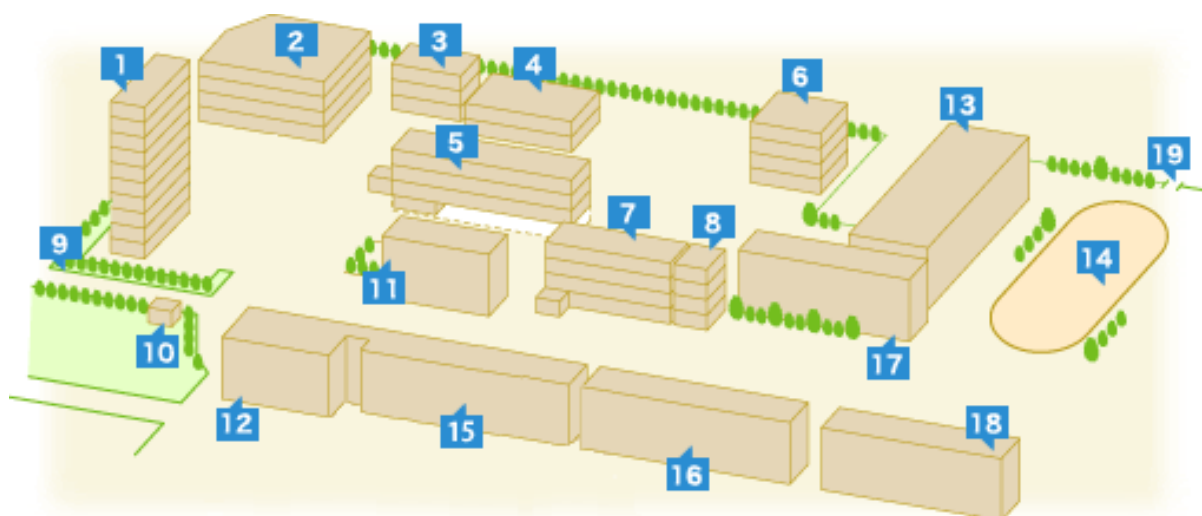


表2 九品寺キャンパス校舎概要

1	1号館	1F 学生食堂・売店 2F 学長室、大学事務局長室、1201号室、保健室 3F 1301号室、1302号室、大会議室、小会議室 4F 栄養調理実習室、更衣室 5F 栄養教育実習室、リフレッシュルーム、卒業研究室 6F 臨床栄養実習室、食品加工・食品学実習室 7F 精密機器室、卒業研究室 8F 教員室 9F セミナー室、教員室 10F 大講義室					
2	2号館	1F 給食経営管理実習室、試食室 2F 解剖生理病理臨床栄養研究室、共同実験室 3F 情報処理教室 4F 講堂					
3	3号館	BF 地下会議室 1F 3101号室、講師控室、学生支援課、就職課、就職資料室・就職指導室 2F 3201号室、3202号室 3F 3301号室					
4	4号館	1F 第2調理実習室、学生ホール、尚綱サポートセンター 2F デザイン演習室、衣服実習室、研究室					
5	5号館	BF 学生会室、卓球場、学生ロッカー室 1F 事務室、第3調理実習室 2F 学長室、認証評価事務室、5201号室、染色実習室、研究室 3F 生化学・食品化学実験室、食品衛生・解剖生理実習室、研究室					
6	6号館	1F 食品加工実習室1 2F 食品加工実習室2、6201号室 3F 研究室 4F 研究室、食物栄養学科実習助手室					
7	7号館	1F (高校図書館) 2F 7201号室 3F 図書館九品寺分館 4F 7401号室、7402号室					
8	8号館	1・2F 図書館書庫					
9	正門	10	守衛室	11	学園本部・中学校校舎	12	高校本館
13	総合体育館					16	グラウンド
17	高校校舎 第1号館	18	高校校舎 第2号館	19	高校校舎 第3号館	26	高校東校舎
27	裏門						

情報サービス施設

楡木キャンパス、九品寺キャンパスともに情報処理教室が設置されている。座席数は楡木キャンパスの情報処理教室が 84 席、九品寺キャンパスの情報処理教室が 60 席である。また、学生用パソコン 2 台の間に中間モニターを設置し、教員用パソコンから画面情報や資料などを表示させて、学生が講義内容を理解するのに役立てている。いずれのキャンパスの情報処理教室も可動式のパーティションを設置しているため、教室を分割して利用することも可能である。

情報処理教室は、授業のない時間帯には学生に開放しており、学生は自習室として利用することも可能である。

その他の情報サービス施設としては、楡木キャンパスにおいては、就職資料室に 5 台、図書館に 7 台（図書館資料検索専用 4 台、インターネット閲覧専用 3 台）、学生ホールに 4 台のパソコンを、また、九品寺キャンパスにおいては、就職資料室に 3 台、図書館に 7 台、学生ホール 10 台のパソコンを学生用に設置している。

図書館

「尚綱学園図書館」は、楡木キャンパスの「中央館」と九品寺キャンパスの「九品寺分館」及び「中学・高等学校分館」からなり、このうち「中央館」と「九品寺分館」が大学及び短期大学部専用の図書館である。中央館と九品寺分館の規模及び蔵書数を表 3 と表 4 に示す。

表 3 図書館の規模

図書館の名称	面積 (㎡)			学生閲覧室の座席数 (a)	学生収容定員 (b)	収容定員に対する座席数の割合 (%) (a) / (b) × 100	備考
	全体	閲覧スペース (内数)	書庫スペース (内数)				
尚綱学園図書館中央館	894	239	485	100	675	14.8	文化言語学部 350 名 短期大学部 300 名
尚綱学園図書館九品寺分館	673	363	257	104	660	15.8	生活科学部 300 名 短期大学部 360 名
計	1,567	602	742	204	1,335	15.3	

表 4 図書館の蔵書数 (平成 23 年 5 月 1 日現在)

図書館の名称	図書の冊数 (冊)		定期刊行物の種類		視聴覚資料の所蔵数 (点数)	電子ジャーナルの種類 (種類)
	図書の冊数	開架図書の冊数 (内数)	国内書	外国書		
尚綱学園図書館中央館	110,442	110,442	96	21	1,866	0
尚綱学園図書館九品寺分館	124,620	73,559	107	10	1,412	0
計	235,062	184,001	203	31	3,278	0

<アクセスマップ>

楡木キャンパス



■尚綱大学・同短期大学部

文化言語学部：文化言語学科 短期大学部：幼児教育学科

■尚綱大学短期大学部附属幼稚園

■尚綱学園図書館中央館

J R	J R 豊肥本線 「武蔵塚駅」下車徒歩 20 分
バス	交通センター B ホーム 清水方面行き (新地団地經由泉ヶ丘行き、杉並台行き) 「尚綱学園・RKKグラウンド前」下車徒歩 1 分
タクシー	交通センターより約 25 分

〒861-8538 熊本市楡木 6 丁目 5-1

T E L 096-338-8840

F A X 096-338-9301

九品寺キャンパス



■ 尚綱大学・同短期大学部
生活科学部：栄養科学科 短期大学部：総合生活学科、食物栄養学科
■ 尚綱高等学校
■ 尚綱中学校
■ 尚綱学園図書館九品寺分館・中等高等学校図書館

J R ・ バス	J R 鹿児島本線 熊本駅下車 熊本都市バス第一環状線 大学病院方面まわり「尚綱校前」下車、徒歩1分 (逆まわりにご注意下さい)
市電	市電(健軍行)「九品寺交差点」下車、徒歩1分
タクシー	交通センターより10分

〒862-8678 熊本市九品寺2丁目6-78

T E L 096-362-2011

F A X 096-363-2975

(5) 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用 (平成22年度)

学科名	入学金	授業料	施設設備資金	初年度合計
文化言語学科	220,000円	620,000円	180,000円	1,020,000円
栄養科学科	220,000円	700,000円	280,000円	1,200,000円

※ 入学金は初年度のみ、納付となります。

※ 授業料、施設設備資金は年額であり、前期、後期に分納できます。

- ※ 各種免許、資格取得希望者の学外実習に要する費用、実験実習費、その他保険料（傷害、賠償責任）が別途必要です。
- ※ 既納の納付金等は、事由のいかんを問わず返却いたしませんのでご注意ください。
ただし、入学金を除く納付金は、入学する月の前月末日までに、文書（本学所定）で入学辞退による返還を求めた場合に限り返却します。
- ※ 一般入試及び大学入試センター試験利用入試ですでに入学手続きを済ませて、他の学部や学科をもう一度受験して合格した場合、入学金の振替ができます。

(6)教材購入費

本学においては、学生生活 4 年間の必要経費として、授業料、施設設備資金、実験実習費及び傷害保険料等の雑費の他、教科書等の教材費が必要である。その額は、授業内容等により年度によって必要額が異なってくるが、4 年間でおよそ以下のとおり見込まれる。

文化言語学部・・・・・・約 32 万円程度

生活科学部・・・・・・約 40 万円程度

2. 修学上の情報等

(1) 教員組織、各教員が有する学位及び業績

文化言語学部

生活科学部

(2) 入学者に関する学生受入方針（アドミッションポリシー）

<文化言語学部>

「文化とことばを究め、今を生きる」をキーワードに、カリキュラムを編成しています。東アジアや英語圏の歴史・文化・言語を学ぶことによって、日本の伝統文化のよさと現代社会への連続性を再認識すると共に、国際的教養と高度なコミュニケーション力を身につけ、地域社会や国際社会で活躍したい学生を求めています。

具体的には、4 コース別に次のような人を求めています。

日本文学・言語コース

- ・多角的な視点から、日本の文化・文学・言語を専門的に学びたい人
- ・文学作品の創作に興味を持ち、その手法を実践的に学びたい人
- ・外国人に日本語を教えるための知識・技術を専門的に学びたい人

書道コース

- ・幅広く書道の知識を学び、技術の向上を目指す人
- ・作品制作を通して創作の喜びを味わい、自分らしさを表現したい人

アメリカ・東アジア文化言語コース

- ・アメリカや東アジアの文化について、専門的に学びたい人
- ・英語、中国語、韓国語の実践的運用能力を高めたい人

地域文化・社会コース

- ・地域文化に興味があり、継承・発展し再生していくことに貢献したい人
- ・現代の家族やそれを取り巻く社会に興味があり、フィールドワークをやってみたい人

<生活科学部>

近年の国民の健康課題である生活習慣病などへの対応、疾病の予防や治療を目的にした栄養指導、療養中の傷病者の栄養管理、老人福祉を中心とした福祉関係の知識など、管理栄養士の高度な知識・技能を習得し、資格を取得したいと考えている人や、優れた見識・国際感覚・豊かな人間性を身につけたいと思う学生を求めています。

具体的には次のような人を求めています。

- ・ 21世紀型の管理栄養士として社会に貢献したいと思う人
- ・ 食と健康に関する現代的テーマに強い探究心を持つ人
- ・ 生物学・化学などの生命科学に興味があり、専門的な真理を探究する意欲がある人
- ・ 医師・看護師などの他の専門職との連携やチームワークに必要な協調性を持つ人

(3) 入学定員、入学者数、収容定員、在籍者数

平成23年度の学生数の状況（平成23年5月1日現在） (単位 人)

学部・学科名	入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
文化言語学部 文化言語学科	75	54	350	219
生活科学部 栄養科学科	70	69	300	309
(生活科学部3年次編入学)	10	4		
計	145	127	650	528

(4) 入学者数、退学者数、除籍者数、中退者数、中退率及び留年者数の推移 (単位 人)

年度	学部	入学者数	在籍者数 (A)	退学者数 (B)	除籍者数 (C)	中退率(% (B)+(C) / (A))	留年者数
H20年度	文化言語学部	53	204	7	1	3.9	0
	生活科学部	74	229	2	1	1.3	3
	計	127	433	9	2	2.5	3
H21年度	文化言語学部	53	191	5	1	3.1	5
	生活科学部	74	306	6	0	2.0	4
	計	127	497	11	1	2.4	9
H22年度	文化言語学部	72	219	9	2	5.0	1
	生活科学部	85	314	6	0	1.9	1
	計	157	533	15	2	3.2	2

(5) 社会人学生数、留学生数及び海外派遣学生数

(平成 23 年 5 月 1 日現在)

(単位 人)

学部名	社会人学生数					留学生及び海外派遣学生数				
	1年	2年	3年	4年	計	1年	2年	3年	4年	計
文化言語学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
生活科学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

備考 1. 社会人学生数、留学生数は、それぞれ社会人入試、外国人留学生入試によって入学した学生数である。

(6) 卒業者数、就職希望者数、就職者数、就職率及び進学者数他

平成 23 年 3 月卒業生の進路先決定状況 (平成 23 年 5 月 1 日現在)

(単位 人)

学部・学科名	卒業者数	就職希望者数	就職者数	就職率	進学者数	その他 (就職を希望しない)
文化言語学部文化言語学科	45	37	35	94.6%	3	5
生活科学部栄養科学科	72	69	61	88.4%	0	3
計	117	106	96	90.6%	3	8

(7) 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画

平成 23 年度開講授業科目シラバス

[文化言語学部](#)[生活科学部](#)

(8) 学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっての基準

①学修の成果に係る評価

平成 23 年度開講授業科目シラバス

[文化言語学部](#)[生活科学部](#)

②卒業の認定に当たっての基準 (必修・選択科目別の必要単位修得数)

卒業に必要な最低修得単位数は、次のとおりとする。

<文化言語学部>

コース名	教養教育科目	専門教育科目						小計	合計
		必修科目	計	領域	選択必修科目	計	選択科目		
日本文学・言語	34 単位以上	・ 6 科目 12 単位 ・ 卒業研究 6 単位	18 単位	日本文学	7 科目 14 単位以上	20 科目 38 単位	専門教育科目の最低修得単	90 単位以上	124 単位以上
				日本語・日本語教育	3 科目 6 単位以上				

				その他の領域	10科目 18単位以上	以上	位(90単位)から、必修及び選択必修で修得した単位を減じた単位以上
書道	・10科目 13単位	13単位	書道	8科目 12単位以上	19科目 38単位以上		
			その他の領域	10科目 20単位以上			
				卒業作品研究又は卒業研究 6単位			
アメリカ・東アジア文化言語	・4科目 8単位 ・卒業研究 6単位	14単位	アメリカ文化言語	4科目 8単位以上	19科目 38単位以上		
			東アジア文化言語	日米比較文化言語、日中比較文化言語及び日韓比較文化言語の各基礎演習、原書購読及び演習科目から7科目 14単位以上			
				3科目 6単位以上			
			その他の領域	5科目 10単位以上			
地域文化・社会	・4科目 8単位 ・卒業研究 6単位	14単位	地域文化・社会	6科目 12単位以上	11科目 22単位以上		
			その他の領域	5科目 10単位以上			

<生活科学部>

区分		必修科目	選択必修科目	選択科目	合計
教養教育科目		13	2	9	124
専門教育科目	専門基礎分野	40		15	
	専門分野	45			

③取得可能学位

<文化言語学部>

学士(文学)

<生活科学部>

学士(栄養学)

④学位授与数

卒業年月	学部名	卒業生数 (学位授与数)
H21.3	文化言語学部	59
	生活科学部	—
	計	59
H22.3	文化言語学部	40

	生活科学部	81
	計	121
H23.3	文化言語学部	45
	生活科学部	72
	計	117

(9) 学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援

①修学に係る支援

基礎セミナー

1年生前期に全員必修で「基礎セミナー」の授業を開設している。本授業は、大学でのまなびへの導入を意図して開講されたものであり、全専任教員によって、少人数（2から6人程度）のセミナー形式で実施されている。教員は、各々の専門領域を活かして、大学へのまなびに対する興味を喚起し、学習意欲の向上に取り組んでいる。

クラス担任制

各学年の学部・学科（コース）単位で担任制を取り入れ、履修相談、学生生活相談、就職・進路相談等に対応している。出欠状況、単位取得状況等を教務課から各担任に適宜知らせ、担任は年度初めの学生との懇談のほか、個人面談でそれぞれの学生の状況を把握し指導・支援するように努めている。また、クラス担任は3年次から就職指導など進路指導にも携わり、学生と密な信頼関係を築くようにしている。

オフィスアワー

文化言語学部では、平成20(2008)年度から、生活科学部も平成21(2009)年度から、全専任教員がオフィスアワー（文化言語学部2回/週、生活科学部1回/週）を設けて学生の質問や相談に応じる体制を導入した。

障がいをもった学生の修学の支援

本学では平成19(2007)年2月に「障害をもった学生の修学の支援要項」を制定し、障がいを有する学生の受け入れが生じた場合の学習支援体制を整備した。

文化言語学部では、平成20(2008)年度に2人、平成22(2010)年度に3人の障がいをもった学生を受け入れている。障がいの程度は、学生ひとり一人に差があるので、学生支援委員が本人及び保護者から配慮すべき事項を確認し、その事項を全教職員に周知徹底することによって、学習支援体制を確立している。

学習スペースの確保

キャンパス内で学生が快適に学べる環境を提供するため、図書閲覧室を学習スペースとして開放した。その結果、利用者が絶えない状況となっている。また、学習スペースの利便性を高めるため、九品寺分館は閉館時間を19時5分に延長し、中央館はグループ学習用のスペースと個人学習用のスペースを分離するという工夫を行っている。

作品指導

文化言語学部の書道コースでは、授業時間外での作品指導に取り組んでいる。実技科目においては基本的な技術の習得の上での作品制作が組み込まれており、授業の流れがスムーズに行き、作品制作に対する理解が深まるよう、各種展覧会出品作品指導を中心として行っている。

臨地実習指導

生活科学部では、管理栄養士国家試験受験資格取得のため、3年次及び4年次は学外実習が義務づけられている。実習期間中、学生は少人数で各学校や施設に配属される。担当教員は実習先の担当者と綿密に相談し、充実した学習成果が得られるように実習の改善に努めている。実習ごとに実習終了時に教員と学生は学内で実習報告と反省会を開き、きめ細やかな指導を行っている。

②進路選択に係る支援

本学では、入学年度から年2回のキャリアガイダンスを実施して、学生の進路選択を早い段階からサポートしている。また、各学部学科の授業に組み込んでいる就職指導の時間においても、進路選択についてきめ細やかな指導を実施している。特に、大学院進学希望者に対しては、進路支援担当教員からアドバイスをを行っている。

③心身の健康等に係る支援

学生の健康面については、学生支援課で毎年度初めに全学生を対象に健康診断を行っている。日々の健康相談は、保健室の養護教諭により行い、毎年「疲労蓄積調査」を実施し、その結果を学生個人に知らせるとともに、結果によっては保健室に相談に行くよう勧めている。

また、心的支援は養護教諭と臨床心理士の資格を持つカウンセラー（非常勤）により行われている。その他の学生の相談には、各学部の学生支援委員と学生支援課職員がクラス担任と連携を取り図り、さらにオフィスアワーも活用して細やかに対応している。

④その他学生支援の状況

本学では学生サービス、厚生補導のための組織として学生支援委員会及び各キャンパスに部会を設置し、学生支援課との連携により、学生会行事関係、奨学金関係、健康管理関係、その他福利厚生関係の業務を行っている。

学生に対する経済的な支援として、日本学生支援機構奨学金をはじめとして、地方公共団体や民間団体の奨学金の募集を行い、手続きを行っている。日本学生支援機構奨学金については、年度初めのオリエンテーションで奨学金制度を詳細に説明し応募者を募っている。家庭の事情等の個人情報に十分に配慮しながら、クラス担任による個別面談と学生支援課の担当者による相談や手続きの指導を行っている。最終的な応募者は学生支援委員会で承認を受け申請する。予約奨学生や入学後の新規採用者は年々増加しており、また、家計の急変により2年次や3年次で新規応募する学生も増加している。地方公共団体や民間団体の奨学金については、それぞれの募集案内を掲示し、希望者にそれぞれの制度を説明して応募させている。

さらに、学生への経済的な援助策として、平成20年度に本学独自の「緊急的授業料免除

制度」を制定した。この制度は、学生としての修学態度が標準に達していると認められる学生にあって、学資負担者が死亡もしくは被災など不慮の事由により授業料の納付が著しく困難であると認められる者又はこれらに準ずる場合で理事長が相当と認める者を対象とし、各学期分の授業料についてその全額又は一部を免除する制度である。

また、本学では学生サービスに対する学生の意見や要望を把握するため毎年「学生生活に関する実態調査」のアンケートを実施して家庭、経済、学習環境、部活、ボランティアなどの実態と問題点を調査している。アンケート結果は学生支援委員会で各学部・学科別に集計・評価され各学部・学科の教員に配布し、学生支援委員並びに各クラス担任により改善・対応策をとる仕組みになっている。さらに、学内に学生支援委員会による「意見箱」を設置し、施設・設備の学習環境のみならず、学生生活全般に関する学生の様々な意見や要望を汲み上げるようにしている。

⑤社会貢献活動

文化言語学部では、教員と学生が近くの小学校で中国残留孤児の児童 10 人ほどを対象に日本語を教えるボランティアを実施している。また、生活科学部では、有機農産物と有機加工食品の認定業務を行う機関として農林水産省に登録されている「NPO法人熊本県有機農業研究会」が主催する「第 10 回ゆうきフェスタ 2009」における「こども料理コンテスト」に本学の教員と学生がボランティアとして参加した。

また、地域社会に寄与することを目的として、尚綱大学短期大学部と共同で、1990 年（平成 2 年）から夏季休業期間に公開講座を実施しており、本年まで 22 回の開催で延べ 1 万 6 千名余の受講者があり、好評を博している。なお、2007 年（平成 19 年）からは上記の公開講座とは別に、文化言語学部主催の公開講座を 10 月の土曜日を利用して実施しているが、好評を得て、昨年までの 4 回の開催で延べ 1,700 名余が受講した。本年度も 8 講座の開設を予定している。

(10) 教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報

平成 23 年度開講授業科目シラバス

[文化言語学部](#)

[生活科学部](#)

平成 23 年度カリキュラム

文化言語学部

生活科学部

3. 財務情報

- (1) [平成 22 年度財産目録](#)
- (2) [平成 22 年度貸借対照表](#)
- (3) [平成 22 年度資金収支計算書](#)
- (4) [平成 22 年度消費収支計算書](#)

- (5) [平成 22 年度事業報告書](#)
- (6) [監査報告書（平成 22 年度決算）](#)
- (7) [平成 22 年度決算の概要報告](#)
- (8) [平成 23 年度学生生徒数の状況（平成 23 年 5 月 1 日現在）](#)